

# 宗祖降誕奉讃法要

## ■ 楽曲データ

楽曲：大橋 博・中出安子 作曲

制定：浄土真宗本願寺派 1963年

初演：宗祖降誕会 1963年

初出：—

管理番号：M1502 / 1503（第一種） / 1504（第二種）

## ■ 創作の経緯

1962年に発足した仏教音楽研究委員会（旧・仏教音楽研究所の前身）での検討を経て、翌1963年に本願寺派ではじめての音楽法要として「第一種」が制定された。相愛女子大学（現・相愛大学）で行われていた西洋音楽によるおつとめがもとになっている。当初は回向がなく、現在は、本法要に基づき蓮如上人500回遠忌法要（1998年）に際して『音楽法要重誓偈作法』が制定された際に新作された回向が用いられている。本願寺で勤められる「第一種」の他、一般寺院用の「第二種」がある。

## ■ 校訂報告【第二種】

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『宗祖降誕奉讃法要 第二種』親鸞聖人御誕生800年・立教開宗750年慶讃事務所 1971年

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

『宗祖降誕奉讃法要』は、1963（昭和38）年に制定された、本願寺派初の音楽法要です。今日では、本山本願寺の宗祖降誕会の作法として依用されており、行事鐘から諸僧の退出まで、途絶えることなく伴奏のオルガンの音色が響きます。本山では、全国の宗門関係学校（龍谷総合学園）の生徒による讃歌衆が法要に加わり、声明や雅楽による伝統的な法要とはまた別の、独特な雰囲気によって御堂が包まれます。

## ◆ 構成

「第一種」は、〈入堂楽〉〈讃歌「いちいちのはな」〉〈登礼楽〉〈至心礼〉〈発起序〉〈重誓偈〉〈念仏〉〈和讃「弥陀成仏ノコノカタハ」〉〈回向〉〈降礼楽〉〈退出楽〉で構成されています。〈讃歌「いちいちのはな」〉では、献供が行われます。

一方、一般寺院用に制定された「第二種」では、「第一種」に比べて器楽部分

が短縮されているほか、〈降礼楽〉の後に〈讃歌「弥陀の名号」〉が挿入されます。

◆楽譜・音源について

「第一種」については、経本・讃歌衆用の楽譜集・CDが本願寺出版社から刊行されています。

また、浄土真宗本願寺派公式YouTubeチャンネルでは、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要にて勤められた法要の映像を公開しています。下記URL・QRコードからご覧ください。

<https://youtu.be/OKB5iMjuYsc?si=CXl3lkRXZXrsTjnF>



Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.